

| | | | |
|---------|-----------------------------|------|-------|
| 氏名(本籍) | 安永尚志(東京都) | | |
| 学位の種類 | 博士(工学) | | |
| 学位記番号 | 博乙第1,215号 | | |
| 学位授与年月日 | 平成8年7月25日 | | |
| 学位授与の要件 | 学位規則第4条第2項該当 | | |
| 審査研究科 | 工学研究科 | | |
| 学位論文題目 | 国文学研究資料の解析と電子化複合媒体資源化に関する研究 | | |
| 主査 | 筑波大学教授 | 理学博士 | 藤原 譲 |
| 副査 | 筑波大学教授 | 理学博士 | 鈴木 功 |
| 副査 | 筑波大学教授 | 工学博士 | 西原 清一 |
| 副査 | 筑波大学教授 | 理学博士 | 大保 信夫 |
| 副査 | 筑波大学助教授 | 理学博士 | 北川 博之 |

論文の内容の要旨

国文学研究において、必要とされる学術資料は複雑多岐に渡るが、文献資料、本文資料、および論文資料の3つのカテゴリに分けられる。

文献資料には、写本、版本などの原本や写真資料があり、また翻刻され、印刷された活字本がある。文献資料は、国初から明治初期までの伝本で、200万点を越えると言われている。研究の主対象である本文資料は、作品の本文(テキストと同義)であるが、語彙、用事、用例索引などを含む。論文資料は研究論であるが、原本などの各種目録、参考図書、辞書などを含めて考える。これらの電子化に当たった課題を整理した。具体的に、国文学研究資料の構造を解析し、その階層構造モデルを構築した。また、直接の研究対象である文献資料の構造を解析し、諸本の系譜構造を明確化し、系譜モデルを定義した。

また国文学研究資料は、主に文字によって表すが、写本そのものがマルチメディア情報であり、画像(動画を含む)、音声でも表現される。複合媒体資源の電子化と組織化が必要である。また、古い日本画における文字には、いわゆるJIS外字が多く発生し、情報の流通性は大きな課題であり特殊文字をコード化した。

既存のDBMSでは種々の問題があり、管理用としてはRDBにポインターを付加しイメージデータなどへの拡張を図り、構築されたデータベースはORIONで研究用に検索サービスを行っている。OODBにより再構築を検討中である。

審査の結果の要旨

文字通り複雑で多様な国文学研究資料を専門家の研究のためと文字遺産保存の画面から長い期間をかけ、綿密な解析を行い、カテゴリ的および系譜的モデルで整理をし、標準にない文字フォントを作成と併せて複合媒体情報の電子化を行ったこと、さらにORIONによる検索システムで研究者の提供も可能とした点が評価に値する。

これらの成果は今後国文学の研究や文化財情報の保存利用に貢献すると思われる。

よって、著者は博士(工学)の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。